

助産師を目指し 深く学び、日々成長



Interview No.002 大学院医学研究科修士課程
専門職養成コース助産師分野助産師資格
2年 中村 美樹さん 大仁田悠さん
1年 秋山 由貴さん 菅野 美織さん

2年生のお二人にお尋ねします。

●実習も始まっていますが、心境の変化などありますか？

大仁田：

学士の時より実習でアセスメントしながら、分娩までを受け持たせて頂き、いのちと向き合う責任感や緊張感を感じ、自ら学ぶことができていると思っています。

中村：

いろんな場面を見て、机上で学ぶことのできなかった不足しているところを学ぶ・本当に日々成長ですね。大学院では自分で実施するためのアセスメントが深くなるように感じています。出産は女性の人生の重要なライフイベントであり、その時だけでなく未来を見据えた社会的支援なども含めて寄り添うことが大切だと感じています。



●みなさん本学医学部看護学科出身ですが、久留米大学のいいところは？

先生方が親身になってくれて、指導もとても丁寧です。違う分野の教員の方も声をかけてくれて心強いですし、教員と病院との連携が強く、私たち一人一人をきちんと見てくださった上で、実習をさせていただきます。

●実際大学院で実習や研究をする上でサポートはありますか？

教員のサポートはもちろんですが、すでに助産師の現場経験がある「助産師分野上級実践」の院生から、実践につなげていけるようなアドバイスや、病院実習の時に声をかけてくれたり、研究室で話を聞いてくれたりと、とても心強いです。



●どんな研究をされていますか？

中村：

妊婦の禁煙支援に関する研究テーマで、看護職者が感じる禁煙支援に対する困難な事象を明らかにすることで、喫煙する妊婦への支援のあり方としてどのようなことが求められているかを検討していきたいと思っています。

大仁田：

妊婦の不妊治療体験が研究テーマです。不妊治療を体験した妊婦への妊娠期のケアが大事であり、不妊治療の過程を振り返ることが、妊娠期や産後に影響を及ぼすのではないかとこの考えから研究を深めています。



●どんな助産師になりたいですか？

大仁田：

大学の実習で、異常分娩を経験しました。ただそばに
いることだけしかできなかった経験から、異常事態になった
時に、適切な判断をし、行動できる助産師になりたいで
す。

中村：

大学病院では、不安を抱えたハイリスクの妊婦さんもたく
さんいます。どの妊婦さんにも出産の喜びを知ってもら
いたい、そのため人生に大きな影響を及ぼす出産体験
を、よりよいものになるように支援したいです。

菅野：

今現在のはっきりとした助産師像にはなっていません。
でも家族へのサポートが必要だと感じているので、女性
だけでなく、父親や家族の人生に寄り添い、支援が
できる助産師になりたいです。

秋山：

看護学生時の精神看護学の実習で患者さんの回復への
ケア体験が自信につながりました。妊産婦特有の精神的な
ケアもできる助産師になりたいと思っています。



●これから大学院を目指そうという方へのメッセージをお願いします！

・実習、研究ときついことはありますが、大学病院で深く学
べて自分が技術や知識の面で成長できる場面がたくさん
あります。そして学ぼうと思えば学べる環境があります。
久留米大学は、技術面の向上と研究の深化の両面を
目指すことができる大学で、横にも縦にもバランスが良いで
す。

・助産師として専門性を求められることが多くなっているの
で、2年間で学ぶことは大きいと思います。

・もちろん、目的や勉強する意欲は必要ですが、是非久留
米大学大学院医学研究科へ入学されてみませんか？

編集後記)

インタビューをした彼女たちは、とても輝いてみえました。
目標に向かって、日々頑張る院生たちを、今後も久留米
大学大学院医学研究科は応援します。

